

# 緒 言

田 中 靖 政

本報告は、1994年度と95年度の2年間にわたって行われた「国家間関係の認知マップに関する日韓政治文化の比較研究」の成果を纏めたものである。この研究は、1995年9月、日本と韓国でほぼ同じ時期に実施されたアンケート法による意識調査の結果の交差文化的比較分析を中心になされたものである。

日本においては日本語の調査票を用いて合計596名の大学生（男子256名、女子339名、不明1名）から、また韓国においては韓国語の調査票を用いて合計434名の大学生（男子253名、女子180名、不明1名）から、それぞれ有効回答が得られた。調査票は最初に日本語版が作成され、日韓二カ国語のバイリンガル専門家によって日本語から韓国語に翻訳された。

本報告の第1章は「若者の世界観——国際紛争と安全保障」に関する日韓学生の意識を比較分析する。第2章は「若者の生活と価値観——国家・社会・個人」と題して、国家と社会と国民との関係を日韓の若者たちがいかに眺めるかを分析し、さらに若者たちの性行動に関する態度を比較した。第3章は「産業と科学技術」の問題に焦点を転じ、第1に日本ならびに韓国における主導的産業の予測、第2に日本ならびに韓国における科学技術の社会的受容の状況をそれぞれ日韓の間で比較分析した。第4章では「日韓政治文化の亀裂を超えて——共生への提言」と題し、日韓両国の学生の間に見られる非対象的態度構造を論じつつ、日韓の更なる相互理解、相互接近を可能にする実現可能なプログラムを提案した。

この報告が日韓両国における学者・研究者、あるいは実務家に対して何らかの知的刺激を提供しうるならば、研究員一同、それに優る喜びはない。他方、取り残された問題も決して少なくない。各方面からのご批判やご教示をいただければ幸甚である。いま、この報告書の編集を終えることができ、ようやく肩の荷がおりた心境である。

最後に、本研究プロジェクトの構成メンバーを以下に示す。

## 本学所属の研究員

田中 靖政（代表研究員・法学部）

田中 伸英（経済学部）

窪田 誠（計算機センター）

## 外部からの客員研究員

岩城 宏明（学習院女子短期大学・当時）

中尾美知子（学習院大学・非常勤・当時）

平野 浩（愛知県立大学・当時）

襄 仁俊（東亜日報・東京支局・当時）

田中 豊（日本学術振興会・当時）

東洋文化研究所の高柳信夫助手（当時）には研究遂行上の事務を、また王瑞来助手には本報告書の編集の仕事をそれぞれ受け持ってもらった。あわせて感謝したい。本報告の刊行が遅れたのは代表研究員の力不足のせいである。この場を借りてお許しを乞いたい。